

Alert 反天皇制運動 48号

[通巻 430 号]
2020 年
6 月 9 日発行

第 4 期・反天皇制運動連絡会

友人への私信

先日は電話ありがとう。久しぶりで長話が出来て楽しかったよ。けど、君の議論にはやっぱり納得できないので少し反論する。

知らぬ間に感染していて他人にうつすのは怖い、自分は加害者になりたくない、と君は言う。前半は当然のことだと僕も思う。それを君が自身の行動の基準とすることには異論はない。だが「加害者」については違和感が強い。感染が先進国で急速に拡大した理由やそもそもの発生原因に人間や今の社会の在り方が絡んではいても、これは自然災害だよ。感染症の拡大という事態に加害者という言葉を使ってしまったら、感染や発症という現象を犯罪視することになる。

それに、君が自身の行動基準を他人にも同様に求めれば、それは道徳的な脅迫となる。「あなたのコロナ対策がみんなを救う」は「あなたの失敗がみんなを殺す」と裏表だ。君にそのつもりがなくても君の論理は「お前は加害者なのか」と問い詰めるものになる。その先にいるのは道徳警察＝自粛警察だぜ？ 法的拘束力のない緊急事態宣言が機能したのは、元から強いこの国の同調圧力と道徳的脅迫の成果だよ。政府は今回の事態を、有事に「国民」をどう動かすかのシュミレーションと考えているはずだ。感染症を前にして罰則もないのに自由を手放した僕たちの姿を彼らは忘れない。感染症が仮に抑え込めても、その先にはこれまで以上に息苦しい社会が僕たちを待っている。君の論理は、君が大嫌いな現政権の政策を支えることになるんだよ。そんなのおかしいだろ？

また今度ゆっくり話をしよう。できれば電話じゃなくてちゃんと会った方がいいな。その時まで、元気で。

(加藤匡通)

今月の Alert ● この世の苦境に天皇の「おことば」も「皇位継承」問題もお呼びでない！—— * 2

反天ジャーナル ● —— 井上森、捨てられし猫、映女 * 3

状況批評 ● コロナ 19 が照らす日本 —— 佐野通夫 * 4

書評 ● 竹内康人著『韓国徴用工裁判とは何か』—— 蝙蝠 * 6

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (120)

● コロナの時代に知る「マヤ文明最古の建築跡発見」—— 太田昌国 * 7

マスコミじかけの天皇制 (47) (壊憲天皇制・象徴天皇教国家) 批判 その 12 ●

新天皇(夫妻)の「コロナ見舞い・医療関係者感謝」メッセージはなぜなかったのか

—— 天野恵一 * 8

野次馬日誌 * 9 集会の真相 * 10 反天日誌 * 12 集会情報 * 12



250 円

● 定期購読をお願いします (送料共年間 4000 円)

● 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/> mail: hanten@ten-no.net

● 以前の情報はこちら ▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

Alert

この世の苦境に、天皇の「おことば」も「皇位継承」問題も、およびでない!



五月二五日、「緊急事態宣言」は全国解除されたが、東京では増減を繰り返す感染者数や外出自粛要請など相変わらずだし、社会的弱者への打撃はこれからさらに過酷なものとなるだろう。自分たちの損得やメンツしか頭がない者たちによる政治は、人々の生活・生存権をとことん追い詰めつつあるのだ。

そのような状況にあつて、天皇の「お言葉」を待つ言論は少なくない。どれだけの人が本当に待っているかといえば、それどころではないというのが大半のはずだ。しかしメディアは、天皇・皇后がこのコロナ状況下でなんからの動きを見せることを期待し、期待通りでないことに不安や焦りを示し始めている。これらの報道は、天皇一族の言動が苦境下の人々を救い、社会はそれを願っているといった空気を作りだすだろう。

もちろん私たちも、天皇たちがどう動くのかについて無関心ではない。人の不幸の上で生き生きと活動するのが天皇たちであり、そこに存在価値を見出す社会であれば、今はその「慈愛」の天皇を売り出す「絶好のチャンス」だ。それをありがたがる人ばかりではないが、それができていないことへの不安と心配をメディアは作り出している。実際、天皇たちは大きく動くことはできずにいる。そのことについてはずでに本紙でも言及されている。だからここでは、メディアがその事態を懸念してみせているこの問題を指摘するにとどめる。

「お言葉は、メッセージは、文書は、なぜ出ないのか」と、一大事のごとく問い、その事情を忖度しては読者に伝える。また、コロナ状況下で天皇たちのイベントも「自粛」となり、露出度が激減していることを心配する。それがどうした、どうでもいいではないか、とは決して思わせてはならないのだ。倒産、閉店、解雇、食費・光熱費・家賃が払えない、といった声があふれる中で、天皇の一言を待つ……。そのこと自体、ただただこの国の政治の貧困を示しているだけである。そして天皇（制）とはその貧困な政治の一部であり、その時々政権に、現在であれば安倍政権に付随し、政策を別の次元で補佐するだけの権威的存在ではない。その天皇の不作為をエクスキューズをするメディアは、天皇制を領導し、作りだす側に立っているのだ。メディアが作りだす言論に要注意だ。

メディアは、もう一つの天皇に関する「心配事」、「皇位継承問題」でも少々盛り上がりを見せている。政府は「立皇嗣の礼」以降に検討を始めるというが、その「立皇嗣の礼」を延期し、相変わらず「男系男子」を原則とするという。これらについて、週刊誌も新聞もそれぞれの立場で取り上げている。たとえば『東京新聞』は五月一七日から七回にわたり「代替わり考 皇位の安定継承」という連載を組み、「男系男子」派、「長子主義」派、「女性・女系」容認派等々の論者にそれぞれ語

らせた。

目新しいものがあるわけではないが、「リベラル」で一定の評価を得ている『東京新聞』紙上で、「男系男子主義」の旧宮家の復帰やその子孫との養子縁組やらが堂々主張されては気分も暗くなる。さらに気持ちを暗くするのは、記事の全てに共通している「皇室の存亡がかかっている」といった、天皇制存続絶対の意識だ。また、この連載のどこで女性論者がでてくるのだろう、いつ「皇室内の男女平等と、それに伴う社会的な影響への期待」といった論が登場するだろうと、これまで暗い気持ちで読んでいた。しかし最後まで登場しなかった。それを代弁するかのような「長子主義」論を、最後の回で君塚直隆が展開しているだけだ。

『東京新聞』が端から女性論者を除外することは考えられない。では、女性たちはなぜ登場しなかったのだろうか。とても興味深い現象だ。依頼された女性たちには「女性・女系天皇」容認で変わるだろうこの社会への展望が見出せなかったということか。あるいは書かれた原稿がボツにされたか。これからその理由が見えてくるのだろうか。このひどい状況下にあつて、小さな楽しみが出来たのかもしれない。

私たちはいま8・15に向かって準備に入つた。どのような苦境下でも社会は動く。私たちもめげずにいこう。

(桜井大子)

デイストピアで死ぬのは嫌だ！

ちうか。





コロナ19が照らす日本

佐野通夫（即位大嘗祭違憲訴訟原告）

「コロナ19（WHOの命名はCOVID-19）で、すっかり「日常」の奪われた三ヶ月であるが、そこに照らされているのは大日本帝国憲法下と変わらない日本の姿である。

まず厄災は「外」からやってくるという見方である。「コロナ19対策センター」ではなく、「帰国者・接触者相談センター」が置かれている。あえて「武漢（それもウーハンでなくフカン）ウィルス」と呼ぶ人たちがいる。日本国内で事態がひどくなるまでは、人々に中国差別意識を植え付けるために利用しようとした。諸外国からは「韓国モデル」と呼ばれ、二ヶ月で市民生活を取り戻した隣国の知恵に学ぼうとはしない。中国・韓国に対する蔑視は侵略・植民地時代と変わらない。さいたま市は備蓄しているマスクを子どもが集まる施設の職員に配布することを決定したが、当初朝鮮幼稚園を対象外とした。日本の諸法の中で感染症対策法だけは国籍条項がない。ウィルスは国籍や民族によって避けるものではないからである。一部の子どもたちを感染の危険にさらすことは、決して許されないことであり、また地域の感染予防という観点からも許される行為ではない。「転売されるかもしれない」という発言もあり、マスク配布が感染予防より「恩恵」であるかの捉え方である。

このようにウィルスに対して科学的に対処しようとはしない。「接触者相談センター」であるならば、感染者と「接触」したと感じる人すべてを検査すべきであるのに、日本では重篤化しない限りは検査を受けることができない。医療制度の整っている国であるならば、臨床医師が検査を必要と思えば、検査ができなければならないのにそれできない。第二次世界戦争下の竹槍訓練を思わせる非科学性である。また、検査数のコントロールによって「感染者数」もコントロールされる。戦時下大本営発表の「大戦果」と同じである。

「コロナ19対応としてまずなされたのは二月二十七日の首相「要請」による全国の「休校」であった。森内浩幸長崎大教授は「休校は感染拡大の防止には

つながっていない」とする（東京新聞五月二〇日）。「感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる」のは学校の設置者である（学校保健安全法第二〇条）。首相は学校設置者に対して指示できる権限を持っていない。しかし、ほとんどの学校設置者が首相の言葉を「忖度」して、いきなりの休校を決めてしまった。これで前から「立法院の長」とも自認していた首相は「まさに……『朕は国家である』（検察庁法「改正」反対検察OB意見書）路線をひた走ることになった。あたかも大日本帝国憲法下の「天皇」であるかのように。二〇一一年の地震の後には「天皇」がテレビに登場して現代の「玉音放送」（「臣民」慰撫の天皇メッセージ）を振りまいたが、今回は自ら絶対君主となったと誤認している安倍が、たびたび「記者会見」に登場し、内容のない言辞を連ね、それをすべてのテレビ局が放映するという体制が作られている。

四月七日「緊急事態宣言」がなされ、学校を含むさまざまな業種に「営業自粛」が求められた。科学的根拠などないものだから、終期は連休が終わる五月六日、そして延長した後の終期も五月三十一日。ウィルスに連休や人間のカレンダーなど、関係あるものか。科学的根拠があるものならば、科学的に必要な期間、必要な制限をきちんと立法化し、正当な補償の下に営業停止が命じられなければならないものを「自粛」という名の強制を行ない、補償はなされない。戦時下の「志願兵」が周囲の圧力の中で無理やりに志願させられたのと同じである。「自粛警察」という危うげな相互監視まで登場している。一九三三年関東大地震時、朝鮮人虐殺を行なった「自警団」を思い出させる。経済活動を「自粛」の名の下にむりやり止めさせることによって生活困窮となった人々には何の救済もない。ようやく住民登録のなされている人一人一〇万円の「特別定額給付金」が支給されることになったが、そのような制度を作らなければならないということ、そして四月二〇日に閣議決定しなが

ら、実際には六月に入らないとその一〇万円は届く見込みがない状況というのは、感染症によるものでなくとも、ふだんの暮らしの中で私たちが生活困窮になった際、なんらの助け(セーフティネット)もないことを示している。

学費や生活費などに困窮する住民税非課税世帯の学生等には二〇万円、それ以外の学生には一〇万円を支給する「学生支援緊急給付金」が、五月九日に発表された。しかし、留学生のみには成績上位三割という制限が付された。また、給付金の対象は学校教育法上のいわゆる「一学校」と、専修学校で専門課程をおく「専門学校」とされ、それ以外の朝鮮大学校などの「各種学校」は対象外にされた(しかし、外国大学の日本校は対象にされている)。

このように自粛体制によって生活が脅かされても、人々はおとなしい。NHKが報じるのは戦時の「隣組」を思わせる「人々の助け合い」である。私の街では朝九時半と午後二時に「防災無線」から「外出を控えましょう」という放送が流れる。これまた戦時の空襲警報だろうか。役にも立たない「アベノマスク」が配られるとされ(まだ届かない)、医療機関には高価な消毒液が有償で届けられる。戦時の配給制度だろうか。老舎『四世同堂』の中で、人々は日本軍の北京占領によって物資が統制され、不足することを怒る。しかし、日本の中では「ほしがりません勝つまでは」である。

裁判すらも「延期」させられている。日本国憲法第32条は「何人も、裁判所において裁判を受ける権利を奪はれない」とし、特に刑事事件については同37条で「被告人は、公平な裁判所の迅速な公開裁判を受ける権利を有する」と「迅速」という言葉まで入っているにもかかわらず。私たちの「即大違憲訴訟」も延期とされ、現在のところ、いつ行なわれるかわからない。諸集会の会場も不当に閉鎖されている。

入国管理局の外国人収容所では、「三密」状態で収容が継続される。コロナ19では、高齢者、基礎疾患のある人などが犠牲になっている。権力に就いてみれば、年金、医療費、収容経費などの金のかかる層が減るありがたいウィルスなのかもしれない。韓国ではコロナ19の経済的影響が低所得層、非正規職において大きいことが示されている(五月二日、KBS「日本のNHKに相当」ニュース)。日本において、そのような調査、報道に接したことはない。大日本帝国軍隊において将校が「何人死ねば勝てる」と言いつき、その死者数は日本軍兵士の数であったことを思わせる状況である。

先に記したように、このコロナ19禍にあつて天皇一家はなりを潜めている。「立皇嗣の礼」も延期とされた。その中で、次のような記事がある(読売新聞オンライン五月一七日)。

「着任しても「次期」駐日大使のまま……トンガなどの6人、信任状奉呈式行えず／日本に着任しながら「次期駐日大使」にとどまっている大使が6人に上っている。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、天皇陛下が新任の大使からあいさつを受ける「信任状奉呈式」を行えないためだ。／(略)大使を正式に受け入れるのは信任状の奉呈後だが、宮内庁は今年4月9日に予定していたトンガとルワンダの大使の信任状奉呈式を延期。以降、式を行う見通しは立っていない。／6人とも信任状の写しを外務省に提出して外交活動は行えるため、実務的な支障は生じていないという。(以下略)」

「信任状奉呈式」自体には疑義があるが、「外国の大使及び公使を接受すること」は日本国憲法に定められた天皇の国事行為である。憲法に定められた国事行為も行わないですむならば、天皇なぞ「象徴」としても不必要であることを示している。そして国事行為以外の「公的行為」なぞなおさら不必要なものである。「立皇嗣の礼」は延期とされているが、そんな儀式が行なわれることのないまま、代替わり事態になれば、秋篠宮は「立皇嗣の礼」がなかったから天皇にならないとは言わないだろう。皇室典範第四条によって「天皇が崩じたときは、皇嗣が、直ちに即位する」のだから。

コロナ19禍にあつて、学校の卒業式、入学式も変形、縮小を余儀なくされた。しかし、その中で卒業式の時点では「君が代」は省略するなという指示も出された(大阪、東京)。天皇儀式を始め、儀式などもともと必要ないものなのである。

コロナ19が照らし出した大日本帝国憲法下、戦時下と変わらない人々の心性。「政治的」課題と異なり、自らの生命に関わるものであるから、人々は簡単にはだまされないだろう、政策に関心を持つだろうと思ったが、その心性は変わらなかった。いや、それは天皇制を維持したことから当然に引き継がれているものであろう。改めて天皇制を廃棄し、日本の過去を清算し、人々の新たな結びつきをめざさなければならない。



竹内康人『韓国徴用工裁判とは何か』

——岩波ブックレット 二〇二〇年一月 本体620円＋税

戦後処理、なかでも戦争賠償と戦後補償は、それが長期にわたる植民地支配の後に問題化したときには、困難を極めるのが当然だ。第二次大戦後の日本政府は、奸智を駆使してこれらの義務をディスカウントするとともに、賠償の支払いを経済・技術協定にすりかえ、これの遂行を、逆に国家間の贈賄や日本企業にとつてのビジネスに変貌させることで乗り切ろうとした。その過程で、ないこととして扱われたのが、侵略され収奪された側の個々の実態であり、国家の犯罪の認知と謝罪の表明もなされなかった。

日本国家は、敗戦後すぐさま侵略支配の事実や資料の隠蔽をはかり、とくに朝鮮に対しては、日本が旧植民地の宗主国であったために賠償請求権を否定し、南北の政治分断や国内政治の独裁体制も利用して「解決」をもちろんだ。一九六五年の日韓基本条約の締結により、この問題は「完全かつ最終的に解決」されたものとみなされた。しかし、軍隊性奴隸制など、条約の締結時に明らかにされていなかった問題の存在と、国家に対する個人賠償、慰謝料請求権についてなど、国際法の認識の枠組みが大きく変わりはじめた。新たな事実の発掘や、被害者個人が声を上げられる環境の拡大とともに、戦争責任や戦後責任、賠償や補償も、大幅に見直されているのが現在の状況である。

竹内さんは、教職にあったときからずっと、戦時の朝鮮人強制連行と強制労働の歴史について調査研究を続けてきた。その成果は、すでに『戦時朝鮮人強制労

働調査資料集1・2』（神戸学生・青年センター出版部）、『調査・朝鮮人強制労働1・4』（社会評論社）などに、大部の資料としてまとめられている。ここで紹介するブックレットは、現在の日韓関係において、もっともホットで重要な問題としてある、「元徴用工」に対する賠償請求についてである。

二〇一八年一月の、韓国大法院における三菱重工に対する判決は、戦時生産のために、名古屋や広島に強制的に動員・連行された人びとに向けられたものである。彼らは逃亡防止のため有刺鉄線で囲まれた粗末な住環境におかれ、長時間労働の給与は「強制貯金」として渡されず、その半額は帰国後の送金すらされなかったという。原爆や地震の被害を受けたり、帰国船とともに没した人びともいた。こうした事実の認定すら、徴用と強制動員、強制労働をさせた企業は隠蔽しとおそうとしていたのだ。この裁判では、名古屋高裁が元労働挺身隊の女性の請求を退けながらも、三菱重工の不法行為を認め、これが未解決であるとした。これが国際法に反する強制労働であったことと、国家無答責論による免罪を退けるとともに、三菱重工の企業としての継続性を認定した。これにより、原告たちはあらためて韓国で訴訟を提起し、韓国大法院における堂々たる判決をかちとつたのだ。

この裁判の概略は、第四章「韓国徴用工判決の意義」にまとめられている。韓国大法院は、日本の植民地支配が合法であるという認識を否定し、強制動員自

体が不法であるということを確認した。さらに、こうした不法行為への個人による損害賠償請求権は消滅しておらず、不法行為に対する損害賠償請求権について韓国の外交保護権も放棄されていないとしたのだ。日本の植民地支配における反人道的不法行為などについては、日韓条約の文書も新たに公開されており、個人の請求権が消滅していないという認識が確立した。これにより、強制動員・強制労働をさせた企業の反人道的不法行為を、被害者個人が直接に問い、尊厳を回復するという道が開かれたのだ。日本政府／外務省は、李明博や朴槿恵らによる圧力を想定していたのだろうか、それは見事に覆った。

安倍らの政府と外務官僚、戦前戦後の継続性から個人請求を認定される可能性のある企業、それらの意を汲むメディアや、これに同調する野党も含めて、この問題では反韓国の大合唱をいまも繰り広げている。そればかりか、経済的な「報復」措置を実施し、韓国の右派を対象とする宣伝工作も実施している。しかし、この裁判を通じて鮮明になっている、国家政策の尖兵と化した企業活動の文字通りの犯罪性は、もはや否定できないだろう。

このブックレットは、問題をわかりやすく整理してくれている。読みながら、「徴用工裁判」を超えて現在の日本政府に寄生する企業活動やその不正を問うための論理を模索しなくてはならない。

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく120

コロナの時代を知る「マヤ文明最古の建築跡発見」



なんでもコロナウィルスのせいにしてよいわけ

はない。個人的なレベルで言えば、自分のうちに
急げ心が頭をもたげるたびに、そう思う。公共的
なレベルで言えば、コロナの正体が突き止められ
ていない間は、公衆衛生・医療の場に対応に当た
る部局・人びとが選択する方針に、過ち・不十分
さ・読みの浅さなどが生まれるのは〈時に〉止む
を得ないだろうが、同じ公共のレベルでも社会・
経済・政治の局面で感染症対策に当たる部局と職
業人にはそれは許されるものではないだろう。そ
の点から見て、日本の政治・社会の現在の有り様
には、この間の、とりわけ二〇一二年・第二次安
倍政権成立後の政治の〈貧しさ〉を直接的に反映
している現実を見ざるを得ず、複雑な思いを抱く。
政権の存続を許してきた社会全体としては、自己
批判を込めて「自業自得」と考えるほかはないが
ゆえの苦い思いだ。ここでは、なんでもコロナの
せいにするわけにはいかない、コロナ以前にも確
かに存在していた不正義や諸矛盾を改めて心に刻
まなければ、と自戒する機会にしておきたい。

こんな時代だから、コロナを離れたニュースを
見聞きすると、いくらかほつとする。もちろん、
中国政府の強権的な対香港政策や米国の警官によ
る黒人虐殺などのように、いっそう胸が潰れるも

のもあるが、今回は別な話題を取り上げたい。

イギリスの科学誌『ネイチャー』六月四日付電
子版に「マヤ文明最古の建築跡発見」に関する論
文が掲載された。場所はメキシコ南東部タバスコ
州で、グアテマラとの国境に近いアグアダ・フェ
ニックス。国際研究チームが飛行機に積んだレー
ザー測量装置（ライダー）で観測した研究結果と
現地での発掘調査に基づいて、南北一四〇〇メー
トル、東西四〇〇メートル、高さ一五メートルの、
土を積み重ねた大基壇の存在が明かされた。周囲
には、中小の広場や舗装された土手の道九本、人
口貯水池がある。放射性炭素年代測定によると、
これが建造・増改築されたのは、紀元前一〇〇〇
年から八〇〇年にかけて、つまり二〇〇年をかけ
たと推定されている。もとより、さらに詳しい調
査・分析は今後の課題となるだろうが、注目すべ
きは次の点だ。明確な社会階層を示す遺物がない
ことから、権力者が登場し中央政府のような組織
ができることで社会に階層分化が起こる前にこの
大建築が造営されたと推定できるが、だとすれば、
超越的な存在の権力意志なくして大規模な共同作
業が可能だったこと、人びとの自発的な意思に基
づいて共同体のアイデンティティーを確立しよう
としてそれは建造されたことを示しているかもし

れない。それは従来の文明観を覆す発見となり得
る（論文そのものの、および日本語各紙で引用され
た共同研究者の猪俣健氏・青山和夫氏の談話によ
る）。有名な古典期マヤ文明の神殿ヒコミットは、
いったん上って石段を下りようとする、その垂
直性と石段の歩幅の狭さに足がすくむ思いがする
が、それは取りも直さず、諸王の権力を誇示する
様式だった。今回の調査チームが、アグアダ・フェ
ニックス遺跡は「社会的な不平等が小さくても大
規模な共同作業」が可能だったことを示している
と強調することには十分な理由がある。

考古学上の発見には、時に衝撃的なものがある。
二〇世紀初頭、地中海のクレタ島での発掘
作業が明らかにした古代都市国家社会では、『女
神』が至高な存在であったことから、戦争の痕
跡がなく、経済は繁栄し芸術は栄えていた。戦
争も支配のための階層性も女性の隷属性も必要
としない社会組織が成立していた。男性支配原
理の〈絶対性〉を信じてやまない怠惰な精神を
震撼させたのである。

論文に付された地図を見ると、この遺跡の位置
は、一九九四年に現代資本主義の象徴たるグロ
バリゼーション＝新自由主義の趨勢に抗し、「自
由、民主主義、正義」を求めて蜂起したサパティ
スタ民族解放軍が、その後四半世紀有余にわたっ
て自主管理を続けている地域の遙か後方を流れ
るウスマシント河の北側に位置していることが
知れる。コロナ以前にもあり、コロナ後にもいっ
そう進行しかねない「格差と分断」の世界を思
うとき、人類史にあり得た／あり得る「頭なき」
「水平的な」社会の夢は、何度でも見ていたい。

（六月五日記）

ミナミの
天 皇 制
47

〈壊憲天皇制・象徴天皇教国家〉批判 その12 **新天皇（夫妻）の「コロナ見舞い・医療関係者感謝」 メッセージはなぜなかったのか？**

天 野 恵 一


私たちの「安保・沖縄・天皇制」を問う4・28／4・29連続行動は、二八日は室内会場が使用できず中止、二九日の「反昭和の日」行動はデモのみ実施。

「右翼の暴力的介入がまったくない『反天デモ』は十何年ぶりじゃないか。とんだコロナ効果的な？」

宣伝カーの中で、運転手に語りかけた、私の最初の言葉である。残念ながら（？）、スタートして間もなく旭日旗を手に、ハンドマイクも持参（いかにも右翼という感じの）が一人路上に現れ、喚き出した。そして途中で「日の丸」をふっている男がもう一人。デモの解散地ではその二人は合流して、もう一人の人物と三人で立ってわめいていた。グループは登場したようだ。

間を長く取った、マスクをつけたデモ隊の列はタラタラと長くなったが、機動隊は今回も直接的規制を避けた。人通りの少ない路上に、「天皇制はいらない！」の声が大きく響き渡った。警察車両は、「二〇〇人のデモ隊が通ります」をくりかえしていたが、実数は八五人くらいのデモ。

とにかくコロナ・パニックの状況下で、私たちの「表現（デモ）」の自由」を実行する運動は、なんとか持続できた。

『週刊文春』（5月21日号）には、「天皇・雅子さま『コロナお見舞い』文書はなぜ出ない」のタイトル記事がある。

「コロナ禍を受け、愛子さまの卒業式に両陛下は出席がかなわず、入学式は中止になるなど、天皇家への影響も大きい。昨年から雅子さまが名誉総裁を務める日本赤十字の全国大会も、例年月の開催が中止に」。

「コロナ禍に不安が募る中、四月二八日に宮内庁ホームページに掲載された文書が波紋を呼んでいる。／『これまでご進講の内容やそこでの陛下のご発言が表に出ることは一切ありませんでした。ところが、特に記者が要請したわけでもないのに、四月十日に行われた新型コロナウイルス感染対策専門会議副座長の尾身茂氏のご進講の際の陛下のお言葉が、突然発表されたのです』（宮内記者）／尾身氏へ感謝から始まるこの文章は、後半、この度の感染症の拡大は、人類にとつて大きな試練」であり（現在の難しい状況を乗り越えていくことを心から願っています）と結ばれている。コロナウイルスに対する陛下の思いを綴っている感謝の弁という体裁だ。／実はこれまでのところ、コロナをテーマとしたコメントは天皇皇后両陛下からは出されていない。二〇一一年の東日本大震災の際は、五日後に天皇がビデオ映像つきでメッセージを出された。今回も同様のメッセージを望む声は少なくないが、一体なぜだされないのか。『感染による被害が一気に深刻化した英国ではエリザベス女王が四月頭にテレビ演説を行

なっています。日本では、段階的に状況が変わったこともありお見舞いのコメントを出すタイミングが難しく、見計っているうちに機を逸した感がある。陛下は医療従事者へのねぎらいや国民への感謝のお気持ちを表明したく、公表を念頭に尾身氏へのコメントを作成された模様です』（同前）。

この後、即位一年の五月一日にも、コロナ禍のムードと即位という慶事との矛盾を意識してか、コメントなしだったと続いている。

自己の政治的演出の力量が、新天皇には不足している、ということか。

五月一二日「国際看護師の日」、英国エリザベス女王一家は、ビデオ電話を使って、ファミリア総動員（笑顔と拍手で医療関係者を称える王子（孫）たち）で看護師たちへの賛辞を送つてみせた。イギリス王室はその国家（政治）的任務を果たし続けている。

そのTV映像を観ながら、日本赤十字の名誉会長である皇后雅子は、そして天皇は、なにもパフォーマンスをくりひろげなかったのは、何故かと思つた。

オリンピック実現優先で後手後手にまわった安倍政権のデタラメなコロナ対策（そしてコロナ危機利用のオレ様政治）というウス汚い政治への人々の怒りは、日々強まっている。こんな時にこそ国の慈悲深さを印象づける政治（パフォーマンス）こそが支配者が必要とする象徴天皇（制）の任務。思つたより、ドジ（それとも明仁への小泉信三のような有能なアドバイザーがいけない結果か）。出遅れ（象徴）の次の一手に批判的に注目して（こつ）。

（五月二日記）

野次馬日誌

5月1日～5月31日

【5月1日】

徳仁◆即位から1年となったとして、宮中祭祀「旬祭」に臨むため、皇居を訪れる。

久子◆故高円宮の妻が、公益財団法人日本ハンドボール協会と、一般社団法人全国ママさんバレーボール連盟の名譽総裁に就任。

皇位継承策◆国民民主党の玉木雄一郎代表が記者会見で、徳仁の即位から1年を迎えたことを踏まえ、安定的な皇位継承策について早期に検討を開始するよう政府に求める。「新型コロナウイルスで非常に難しい状況だが、速やかに議論を始めてもらいたい」。「女性天皇、女性宮家、旧宮家（旧皇族）の皇籍復帰など、さまざまな議論をしなければならぬ」。

【5月2日】

靖国問題◆北朝鮮の朝鮮中央通信が、安倍晋三首相らが前月21日に靖国神社の春季例大祭に合わせて「真榊」と呼ばれる供物を奉納したことについて「侵略の歴史を美化して軍国主義の亡霊を復活させようとするものだ。日本全域に新型コロナウイルスが拡散、緊急事態が宣言された中で供物奉納が行われたと指摘し「日本の反動層の変わりない野望」の表れだと主張。

【5月5日】

ヘイトクライム◆靖国神社の敷地内にある公衆トイレで、新型コロナウイルス感

染症の震源地となった中国湖北省武漢市の人を「皆殺しにする」などと中傷する落書きが見つかった。

【5月9日】

皇位継承策◆政府が安定的な皇位継承策を巡り、前年秋に始めた非公式の識者ヒアリングを終えた。女性・女系天皇と、男系維持に向けた旧宮家（旧皇族）の皇籍復帰の是非を軸に10人以上から聴取し、結婚後も女性皇族が皇室に残る「女性宮家」創設を含め、今後は論点整理に着手する。

【5月11日】

雅子◆皇居にある養蚕施設「紅葉山御養蚕所」を訪れ「御養蚕始の儀」に臨む。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、作業に当たる人を5人から1人に減らし、飼育する品種を日本純産種の蚕「小石丸」だけに絞った。

秋篠宮、紀子、眞子、佳子◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ビデオ会議で、秋篠宮が総裁を務める社会福祉法人「恩賜財団済生会」の関係者から説明を受ける。

【5月12日】

ハンセン病追悼式◆国の不当な隔離政策で差別を受けながら亡くなったハンセン病患者や元患者の追悼や名譽回復のため、政府が6月に予定していた式典を延期。

【5月13日】

東京五輪聖火リレー◆新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により翌年に延期された東京五輪の聖火リレーについて、大会組織委員会が計画見直しの検討を始めたことが分かる。

鹿児島国体◆鹿児島県で10月に予定される第75回国民体育大会に関し、主催者の県や日本スポーツ協会が新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、6月中旬に開催可否を判断する方針。

【5月14日】

美智子◆宮内庁が、美智子に微熱の症状が出ていると明らかに。側近は「疲れが出たのではないか」としている。

伊勢神宮参拝◆三重県伊勢市が、大型連休中の4月29日～5月6日の伊勢神宮の参拝者数が7174人と、昨年の同時期と比べて99.1%減ったと明らかに。

【5月15日】

京都・葵祭◆葵祭が京都市で開催され、下鴨神社で関係者のみの神事を行う。沖縄「慰霊の日」◆沖縄県の玉城デニー知事が記者会見で、太平洋戦争末期の沖縄戦で組織的な戦いが終わったとされる6月23日の「慰霊の日」に開催する沖縄全戦没者追悼式の規模を、大幅に縮小すると発表。

【5月19日】

秋篠宮◆新型コロナウイルスの感染拡大を受け、自身が総裁を務める社会福祉法人「恩賜財団済生会」の医療従事者らをねぎらうメッセージを同会に寄せ、同会がホームページで公開したと報道。メッセージで、2月の済生会有田病院（和歌

山県）での感染事例に触れた上で「感染の危険性に対峙しながらも、高い使命感を持ち、献身的に医療を行っている姿に深く敬意を表します」。

戦死者遺骨◆ロシアなどで収集した戦死者遺骨の取り違え問題を受け、厚生労働省が遺骨を日本人かどうか科学的に鑑定する専門組織を設置する方向で検討している。これまでは検体採取後の遺骨は現地で焼いていたが、今後は焼骨しない方針に転換。

【5月20日】

徳仁、雅子◆赤坂御所で、新型コロナウイルス感染者の治療に当たる医療現場の状況や課題について、日本赤十字社の大塚義治社長らから進講を受ける。徳仁が冒頭、医療従事者に対して「深い敬意と感謝の気持ちを表します」。「このような状況が長期化する中、皆さんのお疲れもいかにばかりかと案じていますし、心ない偏見に遭う方もおられると聞き心配しています」。日赤の名譽総裁を務める雅子「懸命な医療活動は、多くの患者さんの命を救ってこれたものと思います」。

原爆死没者名簿◆広島市中区の平和記念公園で、原爆慰霊碑下の石室に納められている31万9186人分、計117冊の原爆死没者名簿を外気に当てて湿気を取り除く「風通し」が行われる。

草津音楽アカデミー◆8月に開催予定だった音楽祭「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」を中止すると発表。同音楽祭は、明仁、美智子が在位中から静養の間に訪問するのが恒例で、

美智子はピアノのワークショップにも参加してきた。

【5月21日】

皇室行事◆宮内庁の西村泰彦長官が定例記者会見で、新型コロナウイルスの感染拡大で延期や取りやめが続く、徳仁、雅子や皇族が出席する行事の再開後の在り方について、同庁で検討を始めていることを明らかに。「今までのような形は当分難しい」としつつ「国民との接点をなくすことはあり得ない。何らかの形で工夫してやっていくべきだ」。出席行事の在り方は、感染状況や政府の方針、主催者の意向などを踏まえ検討する。

【5月22日】
徳仁◆政府が、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言中に、新聞記者らと賭けマージャンをしていた東京高検の黒川弘務・検事長の辞職を閣議で承認。徳仁が「裁可」して辞職が正式に認められる。

宮内庁施設◆宮内庁京都事務所が、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため休止していた京都御所の参観を23日から再開すると発表。京都仙洞御所、桂離宮、修学院離宮も同日から参観再開となり、事前申請も受け付ける。

【5月23日】
東京五輪◆東京五輪の準備状況を監督する国際オリンピック委員会のジョン・コーツ調整委員長が、新型コロナウイルスの影響で1年延期された東京大会について、10月が開催可否を判断する重要な時期になるとの見通しを明らかにしたと、地元オーストラリアン紙などが伝え、再延期はできないとの考えも改めて示したと報道。大会組織委員会が、コーツ委員長の発言について「そのような話はない」。

【5月25日】
徳仁◆皇居内の生物学研究所の隣にある水田で、恒例の田植えをする。

秋篠宮一家◆新型コロナウイルス感染拡大を受け、社会福祉法人「恩賜財団済生会」に、ポリ袋を使って手作りした医療用ガウンを300着寄付した。済生会は秋篠

宮が総裁を務めている。

皇居「侵入」◆皇宮警察が、堀を泳いで皇居に侵入したとして、建造物侵入の疑いで男性を現行犯逮捕。皇居内で徳仁による田植えがあったが、行事に影響はなかった。

【5月26日】
歴史認識◆福岡県が九州朝日放送に制作と放送を委託したラジオ番組をホームページでの公開用に保存する際、太平洋戦争時の炭鉱労働に関する発言の削除を番組側に要請した問題で、福岡市の市民団体「人権問題を考える福岡の会」などが、再発防止を求める要望書を県に提出。

【5月27日】
秋篠宮、紀子◆福岡アジア文化賞委員会事務局が、新型コロナウイルス感染拡大のため、9月に予定していた第31回福岡アジア文化賞授賞式を1年延期する。

美智子の「首相」

口実にするな！5・3改憲反対デモが行われた。呼びかけは、「戦争・治安・改憲NO！総行動」（以下、「総行動」）。16時に新宿アルタ前に集まり、16時30分から新宿駅周辺を一周するデモを行った。参加者は一三四名。先立つ五月一日には、同地で17時30分からメーデー情宣。その際の参加者は八〇名。

五月三日、「安倍首相は『緊急事態宣言』を撤回しろ！生活を保障しろ！命を守ろう！」コロナを改憲の

ための正義記憶連帯」（正義連）の尹美香・前代表らの「不正会計疑惑」に関し「約30年の活動が政争の口実になったり、誹謗中傷や極右派による悪用の対象になったりしてはならない」。

【5月28日】
「戦死者慰霊」◆加藤勝信・厚生労働相が、第2次大戦中に海外などで死亡した身元不明の戦死者を慰霊するため、千鳥ヶ淵戦没者墓苑を訪れ、献花。

【5月29日】
明仁◆皇居にある生物学研究所を訪問するため、皇居を訪れる。マスクをつけ車で飯御所を出て、皇居・乾門に入る。

雅子◆皇居にある養蚕施設「紅葉山御養蚕所」で、蚕に餌の桑の葉を与える「給桑」の作業に取り組む。

【原爆の日】◆菅義偉・官房長官が記者会見で、縮小開催の方針が示された8月の広島原爆の日（6日）と長崎原爆の日（9日）の両式典への安倍晋三首相の出席に、今後調整していく。

療破壊の責任を取れ！お金を医療にまわせ！保健にまわせ！福祉にまわせ！休業補償にまわせ！労働者にまわせ！といった主張が共感を呼んだのだと思う。「外国人を排斥するな！警察に『自粛』を監視させるな！」という主張も、新宿にはマツチした。

総行動は、五月三日に「改憲阻止！コロナ緊急事態宣言糾弾！集

会」を開催し、五月二十八日には、「やめろ！憲法審査会開催 コロナを利した改憲策動を許さない！5・28緊急国会行動」を呼びかけた。権力は「自粛」などしていない。コロナを奇貨とした緊急事態条項追加を軸とした改憲攻撃に反撃していこう！（池田五律／戦争・治安・改憲NO！総行動）

5・4 茨城反貧困メーデー

五月四日、茨城反貧困メーデーinつくば「選択肢がない／ひきこもっても働いても叩かれる」を行った。午後二時からつくばエクスプレスつ

くば駅隣接の中央公園で集会を行い、午後三時半から駅周辺をコースとする一時間弱のデモを行った。集会では、ひきこもり大学茨城キャンパスの高橋雅樹さんとウーバーイーツ・ユニオンの土屋俊明さんをお招きして話をしてもらった。集会参加者は二四名、デモ参加者はそれより若干多かったらしい。

茨城反貧困メーデーは実行委員会を組織して行っている独立系メーデーだ。リーマンショックの二〇〇九年に始まり、茨城県南のいずれかの都市で集会とデモを毎年行ってきた。参加者には非正規労働者が多く、五月一日に必ずしも仕事を休めないた

め（休めても減収になるため）、通常はその前後の週末・休日に行う。昨年は五月一日が休日になったが、まさにその理由（新天皇即位）を批判するメーデーができるか否かが問われた（私たちは茨城反貧困メーデーとは別枠組で「五月一日は天皇の日じゃない労働者の日だメーデー」を行った）。

今年は、新型コロナパンデミックと政府の緊急事態宣言によって、メーデー開催自体が危ぶまれた。事実、各地のメーデーの多くは中止になったりネット配信になった。そのような中、私たちは当初予定した室内集会を屋外集会に変更しただけで、街

頭デモも貫徹できて良かったと思う。なお、今年のテーマは、たまたまパンデミック下の不安定労働者の状態を表すようなものになったが、それは関係なく企画の早い段階で決まっていたものである。（藤田康元／茨城不安定労働組合）

5・13 再稼働工事をやめろ！「原発」要請行動

新型コロナウイルス・パニックというべき状況下の今でも、政府・電力会社・原子力規制委の一体化した原発再稼働推進政策は着々と実行さ

【学習会報告】

佐瀬隆夫『1945年アメリカの心理戦と象徴天皇制——ラインバールとジョセフ・グルー』（教育評論社・二〇一九年）

アメリカが大日本帝国との戦争に向けた調査や準備は、きわめて周到なものだったことが、公開文書から明らかになっている。パールハーバーからの開戦に先立つ日中戦争の戦争政策はもちろん、戦時中の兵站や国内状況から、連合国の勝利を見切ったうえでの日本支配や戦後の東アジア政策など、資料を基にした研究が発表されるたびに目を瞠らされる。

この本は、五百旗頭真や中村政則、とりわけ加藤哲郎による先行研究をベースに、日米戦がはじまった直後から、P・M・A・ラインバールとJ・C・グルーにより、いかにアメリカにとって少ない損害で、対日戦争勝利と戦後支配を実現していくための構図が描かれたかを明らかにしている。日本人の権威主義的性格を利用し、天皇制帝国を「象徴天皇制」に組み替えることで、アメリカの占領政策／戦後体制を盤石なものとした。その目的で一九四二年に描かれたのが『日本

計画』で、それは絶大な成功をもたらした。紹介された分析の内容は差別的だが、無念にもイタいほど正鵠を射ている。それにしても、現在の政治やメディアを跋扈するウヨたちの「歴史認識」が、八十年以上も前のアメリカの対日分析の掌中を、いまだ一歩も出ない。ましてや大日本帝国を「栄光」という連中に至っては、「象徴天皇」裕仁や吉田茂ら「重臣」など米国のパペットたちすら、肚の中で笑うだろう。ラインバールは、政治学の研究から陸軍情報部で軍務につき、後にはSF「人類補完機構シリーズ」（コードウェイナー・スミス名）など

の小説家としても知られる博識多才の人物。また、著者の佐瀬は銀行勤務のなかで日本型企業文化への疑問から天皇制を意識し、定年後に研究生活に入ったというたいへんな晩年で、正直なところ脱帽し、何歳になっても努力しなきゃと感じる。本の内容のアウトラインはあるていど知られてもいるので、議論はこの「心理戦争」や、戦後天皇制の構図の巧みさ、分析のバックグラウンドの知識の評価から、やや脱線気味に広がった。次回はちよつと毛色を変えて、山本太郎「感染症と文明」（岩波新書）を7月21日に読む。ご参加を。（蝙蝠）

れ続けている。五月二三日、「規制委」は原発の使用済み核燃料からプルトニウムなどを取り出す青森県の日本原燃六ヶ所再処理工場を基準に「適合」の判断を示した。

この日私たちは、東海第二原発の「安全性向上対策工事」と名付け、県外から一七〇人以上の作業員を集めて進めている、再稼働のための工事に抗議。「日本原電」への工事ストップ要請行動を行った。

玄海原発では、作業員に感染者が出て工事は中止されている。また柏崎原発でも社員の中で感染者の発生が伝えられている。さらに全国的にゼネコンによる工事の中止。こうした状況の中で、工事を中止することすらしない「原電」。

「今、国をあげて、新型ウイルス感染拡大を食い止めるために学校をはじめ生産現場・オフィス、工事現場まで休業して感染拡大を抑えようとしています。記者は『特措法』の『指定公共機関』とされる『電気又はガスの供給、その他の公益的事業を営む法人』とされますが、法の趣旨からすれば感染拡大防止のために緊急性のない工事を止めることこそ求められていると解するべきと考えています。そして、何よりも地元に残り添い、東海村をはじめとする茨城県内での感染拡大防止のために、

工事を中止して企業としての協力を行うべきではないでしょうか」(要請文)。

この状況で、放射能をまきちらす原発の再稼働のための工事ストップを要求するのは、あたりまえ。再稼働されてしまっている原発も、再稼働をストップすべきである。そもそも原発そのものが「不要」なものなのだから。

(天野／とめよう！東海第二原発首都圏連絡会)

ハタ天日誌

5月1日(金) ●パンデモス2020

@日銀前メーデー

5月3日(日) ●安倍首相は「緊急事態宣言」を撤回しろ！改憲反対デモ(集会報告参照)

5月4日(月) ●茨城反貧困メーデー in つくば(集会報告参照)

5月13日(水) ●再稼働工事をやめろ！「原電」要請行動(集会報告参照)

5月24日(日) ●おことわりリンクス タンディング

6月1日(月) ●辺野古新基地建設の強行を許さない！防衛省抗議／申し入れ行動

ハタ天日誌 INFORMATION

開催中 ●朝鮮人「慰安婦」の声をき

く

13時〜18時(月・火・休日休館)／WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅)／主催…同館

6月13日(土) ●練馬駐屯地デモ

14時集合・15時デモ出発／徳丸第二公園(東武東上線東武練馬駅ほか)／主催…有事立法・治安弾圧を許すな！北部集会実行委員会、反安保・反自衛隊・反基地闘争を闘う東京北部実行委員会

6月14日(日) ●コロナに乗じたハイトをやめろ！自衛警察にNO！緊急アクション

15時30分／池袋東口(JR池袋)／主催…差別／排外主義に反対する連絡会(hanhaiatsyug@gmail.com)

6月22日(月) ●止めよう辺野古新基地建設！辺野古裁判勝利！首都圏集会

18時／日本教育会館一ツ橋ホール(地下鉄神保町ほか)／桜井国俊、金平茂紀／主催…「止めよう！辺野古埋立て」国会包囲実行委員会、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会(090-3910-4140)

6月24日(水) ●靖国見せしめ裁判 控訴審

14時／東京高等裁判所(地下鉄

霞ヶ関駅)

●おことわりリンクスタンディング 19時／東京駅

7月6日(月) ●辺野古新基地建設の強行を許さない！防衛省抗議／申し入れ行動

18時30分／防衛省正門前(JR・地下鉄市ヶ谷駅)

7月12日(月) ●復興五輪は大嘘だ！聞こう！福島原発事故被災者の声

17時30分／練馬区役所・地下会議室／武藤類子／主催…東京オリンピック・パラリンピックを問う練馬の会(連絡先：090-5208-5803)

*会場等の理由により中止・延期の可能性あり。主催者へのご確認を。

●病人が続出でえらいことに。ほぼ未経験のソフトを使い、電話の遠隔指示を受けて組版まで(蝙蝠)

●コロナではない病気で、作業参加者極少数。実は私もヘロヘロ、校正のミスがないことを祈る(熊)

●トラブルはいつものことだけど、今回もサイコーでしたっ(木菟)

